

2025年6月8日 説教「真理の御霊が来ると」

ヨハネの福音書 16章 7～15 節

本日はペンテコステ礼拝でありますので、聖霊降臨に関わる聖書箇所から学んでいきます。今朝の聖書記事はイエスが十字架につかれる前の事です、イエス・キリストによって語られた聖霊降臨についての部分を読みます。

1. 助け主が来られるというお約束 (7～8 節)

- ①イエスが世を去ることは (7 a) **「しかし、わたしは真実を言います。わたしが去って行くことは、あなたがたにとっては益なのです。」**

5 節において、「わたしは、わたしを遣わした方のもとに行こうとしています」とイエス・キリストは言われました。実際のところ、イエスは十字架につけられるのが目の前に迫っていたのです。このことを聞いた弟子達は悲しんでいました。しかし、イエスは真実を言われました。わたしが去って行くことは、弟子達をはじめとした人々にとっては益なのだ。

- ②助け主を遣わす (7b) **「それは、もしわたしが去っていかなければ、助け主があなたがたのところに来ないからです。しかし、もし行けば、わたしは助け主をあなたがたのところ遣わします。」**

イエスの言葉は続きます。前節の言説の理由として、ご自分が去ってこそ、助け主が遣わされるからだと言われるのです。助け主とは聖霊のことです (14:26)。原語は《パラクレートス》であり、援助者、とりなし手、弁護者、慰め手、などの意味があります。

- ③その方が来ると (8) **「その方が来ると、罪について、義について、さばきについて、世にその誤りを認めさせます。」**

その方、助け主が来ると、罪について、義について、さばきについて、「世の誤りを明らかにさせる」というのです。つまり、世の人々は罪、義、さばきについて誤った理解をしていて、助け主は人々にその誤りを理解させ、認めさせるというのです。

2. 助け主のなさること (9～12 節)

- ①罪を認めさせる (9) **「罪についてというのは、彼らがわたしを信じないからです。」**

助け主なる聖霊は、罪について、世の人々に認めさせる理由は、彼らがイエス・キリストを信じないからだと言われます。罪はアダムとイブが神から離反した事に始まります。神から離れるというのは、不信仰の状態です。それをわからせてくれるのが助け主 (聖霊) なのです。

- ②義とさばきについて (10～11) **「また、義についてとは、わたしが父のもとに行き、あなたがたはもはやわたしを見なくなるからです。さばきについてとは、この世を支配する者がさばかれたからです。」**

そして、福音のうちに表された神の義は、イエスが十字架上で死に、よみがえり、昇天され、私たちには見えなくなった時に、聖霊によって、明らかにされることになるのです。また、地上におけるサタンの支配が明確にされ、

節度ある輝きが、聖霊によって明らかにされることになるのです。

- ③話すことは沢山ある(12)「わたしには、あなたがたに話すことがまだたくさんありますが、今あなたがたはそれに耐える力がありません。」

主イエスはその宣教生涯において、たくさんの教えをなさいました。しかし、ある面では限られていました。弟子達にとっては、もっと聞いておくべき点もあったでしょう。しかし、弟子達に受容力がなければ、その教えが不消化になるだけでした。

3. キリストの栄光を表す聖霊(13～15節)

- ①真理の御霊が来ると(13)「しかし、その方、すなわち真理の御霊が来ると、あなたがたをすべての真理に導き入れます。御霊は自分から語るのではなく、聞くままを話し、また、やがて起ころうとしていることをあなたがたに示すからです。」

それではイエスの教えは、その昇天後には全く途絶えてしまったのでしょうか。そうではなく、真理の御霊は来られると、信徒達に真理の全体を明らかにしてくださるのです。御霊は父なる神、子なる神(キリスト)からのメッセージを伝えるとともに、預言的なことばをも語るようになるということです。それは、福音書以外の新約聖書のなかに見ることができます。

- ②イエスの栄光を(14)「御霊はわたしの栄光を現します。わたしのものを受けて、あなたがたに知らせるからです。」

御霊なる神は降臨されて、イエス・キリストのご栄光をより一層はっきりと現わすのです。イエスの御存在のすべてを受けて、弟子達はもとより、そのあとに続く者たちに、イエスが救い主であることを示して下さるということです。

- ③父、御子、御霊(15)「父が持っておられるものはみな、わたしのものです。ですからわたしは、御霊がわたしのものを受けて、あなたがたに知らせると言ったのです。」

父なる神からの恵みをイエス・キリストは一身に受けておられたのです。そして、十字架にかかり人間の罪の贖いを成し遂げ、復活され、昇天された後には、御霊なる神が降臨されて、イエス・キリストの福音のすべてを、この世に証ししてくださることになるということです。

《結論》 今朝もこの聖書箇所から三つのポイントで考えます。『

第一は、真理の御霊の降臨についてです。

イエス・キリストは十字架につけられる前に、「わたしが去っていくことは益なのです」と言われましたが、その十字架の死によって贖罪の福音が完成するという恵みですから確かに益でした。また、助け主である御霊が到来することを預言してくださいました。これは大いなる益でもありました。「使徒の働き」において、この実現が確認できます。それは五旬節の日でした。弟子達が集まっている時に、天から激しい風が吹いて来るような響きが

家全体に広がったのです。すると、炎のような分かれた舌が現われて、一人一人にとどまりました。すると彼らは聖霊に満たされて、他国の言葉で話したのです。ペテロは人々の前でキリストの福音を伝え、悔改めを促しました。3千人もの人々が弟子となったのです。そこに美しい教会が生まれていきました(使徒2章)。こうした出来事は、まさに弟子達が想像もしていなかったことで、まさに益でありました。この出来事がなかったら、教会の誕生はなかったのです。真理の御霊の降臨は今日につながる教会にとって、神を知るために、重要な日なのです。ペンテコステを覚えていきましょう。

第二に真理の御霊が明らかにされることについてです。

真理の御霊は、罪と義とさばきを明らかにすると8節以下で読みました。イエス・キリストはその御誕生から十字架、復活に至るまで、救い主としての働きを全うされました。それでは、主の昇天後に生きた民はどのようにして救いを受けたのでしょうか。真理の御霊が降臨してくださったからこそ、キリスト後の人々は真理を知ることができたのです。そして、現在でもそうなのです。真理とはキリストのことです。キリストを知ることが、御霊がとりなして下さる時に実現します。十字架の意味を知るには、自らの罪がはっきりとされなければなりません。神の義がわからなくてはなりません。十字架の身代りの死がわからなくてはなりません。それをわからせてくださるのが聖霊です。主にある者も、求める者も、改めて御霊なる神のとりなしをいただきましょう。

第三に、御霊なる神の私たちとの関わりについてです。

イエス・キリストはご自分のあとに「助け主」が来られると言われました。助け主とは、援助者、とりなし主、弁護者、慰め主、などの意味があります。皆様、この社会にもヘルパーさんという職務を担っている方々がいます。この方々がいないければ、高齢化社会は成り立たないでしょう。そのサポートがあればこそ生きていける人々も少なくありません。何かのトラブルが生じた場合に、弁護人の存在も欠かせないでしょう。本人に代わって、トラブルの解決と弁護を法律に基づいて行ってくれるのです。また、特別の職務でなくても援助してくれる人も貴重ですね。御霊なる神は、真の魂のヘルパーです。また、私たちの救いのために間に入ってくれる弁護者です。もちろん、諫めることも含めて、導いて下さる方なのです。キリストを仰ぐときに、働いてくださるお方です。また、使徒の働きをもう一度読み返してみてください。宣教を導き、とりなしてくださるのも御霊なる神です。

御霊様を御人格として仰ぐことはなかなか難しいです。ですから、イエス様とよびかける時に、また父なる神様と呼びかける時に同時に御霊様は働いてくださいます。しかし、先ほど歌いました讃美歌500番には、「御霊なるきよき神」と呼びかけていますね。私たちも、このペンテコステを迎えたこの朝に、「御霊なる神様」とよびかけていってはどうでしょうか。そこに主なる神は新たにあなたに臨んでくださいます。あなたの抱えている問題を、御霊なる神様に相談するのはどうでしょう。聖霊なる神はきっと、大いなる祝福を与えてくださいます。